

## 実践報告

わが病院看護自慢

# 「継続した看護・介護で地域全体をケアする取り組み」 開催報告

大西 真奈美

医療法人社団 和楽仁 芳珠記念病院

日時：2018年8月10日(金)9：20～12：00

会場：石川県能美市 社会福祉法人 陽翠水 共生型福祉施設 G-Hills 共有ホール

参加者：20名(発表者、担当者5名含む)

テーマを「継続した看護・介護で地域全体をケアする取り組み」とし、ほうじゅグループである社会福祉法人が運営する共生型施設での開催とした。この共生型施設は2018年4月にオープンした施設で8つの事業が展開されている。保育事業(病児保育も含む)、放課後児童クラブ、児童発達支援事業、通所介護、訪問介護、高齢者支援センター、カフェ、配食サービスである。多世代を対象としており、法人理念である「人と社会を健康に」を目指していることも含め、今回のテーマを考え、会場として最適と考えた。

開催は2部構成とし、第1部では、ほうじゅグループ代表である仲井培雄理事長から「地域包括ケアシステム推進に向けたほうじゅグループの挑戦」というテーマでお話をいただいた。内容としては国、県、能美市の現状から共生社会の重要性について、そのような中で看護職に求められていることなどがあった。続いて、G-Hillsの下崎哲也統括管理者から、施設のコンセプトや各事業の説明を受けた後、施設内見学を実施した。

第2部は、「病院から地域につなぐ取り組み」として事例紹介を行った。イントロダクションと



連絡先：大西 真奈美

医療法人社団 和楽仁 芳珠記念病院

〒923-1226 石川県能美市緑が丘11丁目71番地



して芳珠記念病院の東栄美子看護局次長から、生活支援型医療を担う看護師育成のための院内教育について報告があり、管理者の訪問看護実習や卒業後3年目の在宅実習などの実践報告があった。その後事例報告に移り、芳珠記念病院の山下由美子病棟師長からは「入院中から訪問看護師と共に在宅支援を行った事例」。同じく河合純子退院支援看護師からは「家族、本人の急な退院希望を受けて退院後に訪問看護につないだ事例」と、訪問看護も含めた地域の資源を活用し在宅へつないだ2例の報告があった。

1事例目は医療療養病棟からの退院事例で、自宅での生活を考え、入院中から訪問看護師の介入が有効であったことがわかるものであった。2例目は家族が急な退院を決定したが、それまでの思いを引き出すことができていたかの振り返りや、



家族の思いは揺れ動くものであり、表明した際にいかに迅速に準備ができるかをチームが共有することが大切であることが理解できた。

芳珠記念病院は2012年にも、わが病院看護自慢を担当している。その時のテーマが「多職種協働」で、主に院内多職種協働に向けてのプロジェクト活動を発表した。今回は多職種協働を「院内多職種協働から地域内多職種連携」へ拡大した活動と事例報告とした。貴重な機会をいただいたことで取り組みを振り返る良い機会となった。

今回参加された方々の所属は、県内医療機関のほかには看護学校、企業などがあった。「ハード面だけでなく、本来の共生社会について考える機会となった」という参加者の意見もあり、各施設の取り組みを現場で見聞きできることは、連携強化の第一歩になると感じた。